

余丁校通信



7月の生活目標

友達と仲良くしよう。

「願い」は「目標」に

副校長 木田 那奈

6月29日からの3日間は、学校公開です。今回は、時間や人数の制限がない学校公開となりました。ようやく新型コロナウイルス感染症拡大防止措置から日常を取り戻してきています。お子さんの学級の普段の様子をご覧ください、ご家庭でたくさんお話ししてほしいと思います。

さて、7月7日は七夕です。

七夕は、織姫と彦星が1年に1度だけ、天の川で会える日で、このような昔話が残っています。

昔あるところに、神様の娘の織姫と、若者の彦星がいました。織姫は機織りの仕事をしていて働き者。彦星は牛の世話をしているしっかり者でした。やがて2人は結婚しました。すると、今まで働き者だった2人は急に遊んで暮らすようになり、全く働かなくなりました。怒った神様は、2人の間に天の川を作って離してしまいました。悲しみにくれた2人は泣き続けました。それを見た神様は、前のようにまじめに働いたら、1年に1度だけ、2人を会わせてくれると約束しました。それから2人は心を入れ替えて一生懸命働くようになったのです。そして、2人は年に1度だけ天の川を渡って会うことが許されるようになり、その日が七夕とされるようになりました。

笹に短冊をつるして願い事をするようになったのは、江戸時代からだそうです。短冊とは、細長く切った紙や木のことを言うのですが、七夕の時にはこの短冊に願い事を書いて笹に飾ることになっています。どうして短冊に願い事を書くようになったかという、昔の人が、織物の上手な織姫のように（織姫にあやかって）、「物事が上達しますように」と、お願いをしたのが始まりだと言われています。そして、その願い事を書いた短冊を笹の葉に飾ると、織姫と彦星の力で願いが叶えられたり、みんなを悪いものから守ってくれたりするという言い伝えがあります。

願いや想いは努力の源であり、こんな自分になりたいと思うことはとても大切なことです。「願い」を大きくふくらませ「夢」にして、日付を入れて「目標」にしてほしいと思います。

研究について

研究担当 小松 沙織

今年度も、昨年度に引き続き「主体的に読み、自分の思いや考えを伝えようとする児童の育成」を主題とし、国語（物語文）の研究に取り組んでいます。

「読書は、私たちに未知の友人をもたらす」という言葉があります。物語を読むことは、本来とても楽しいものです。楽しみながら、文章を正確に読む力や、登場人物の心情を豊かに想像する力など、たくさんの力を身に付け、友達と話し合ったり、自分の考えを深めたりしてほしいと考え、授業を展開しています。そうして力をつけることで、物語を読む楽しさをさらに味わえるようになるはず。そこから今後の読書生活を充実させ、たくさんの「未知の友人」に出会ってほしいと願っています。

我々も日々授業改善を行い、子どもたちに負けないくらい進化し続けられるよう、教員一同努力していきます。

和太鼓愛好会について

和太鼓愛好会担当 竹元 洋平

今年度の和太鼓愛好会も林幹先生と太田理絵先生の指導の下で、5月より活動しています。

今年度は新しいメンバーも加入し、全体で30名を超えました。すでに数回練習を行っていますが、6年生が中心となり、この大所帯で活動を進めています。

昨年度に引き続き、今年度も練習はコロナ渦前と同じく通常通り行う予定です。イベント等での演奏の機会も昨年同様あります。学校の行事での演奏や、外部のイベントでの演奏など、機会があれば、児童たちの演奏する雄姿をご覧くださいと思います。

今後も、保護者の皆様や地域の方々に支えていただきながら、児童たちにとってよりよい活動ができるよう進めていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。